

開講科目名 / Course	医療技術論	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	前期	
単位数 / Credits	2.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	秦 さと子	
担当教員名 / Instructor	秦 さと子、田中 佳子、廣田 真里	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	演習	
科目の目的と概要	基礎看護技術において、身体侵襲を伴う援助技術や医学的検査および治療の際に付随して発生する対象の苦痛や不安をできるだけ軽減し、検査の目的や治療の効果が最大限に達成されるための支援についての知識・技術の修得を目的とする。各々の技術の背景にある原理や科学性について学び、技術の適応や応用を考えながら技術演習を行う。	
到達目標	1. 診療に伴う治療・処置・検査等における援助技術についてシミュレータを用いて実施できる。	
DPとの対応	1. 確かな看護の力・技術力	
授業計画	<p>授業は原則2コマ続きを15回実施する（計30回）</p> <p>01-02. オリエンテーション・感染防止の技術（1）ガウンテクニック、滅菌手袋の着脱</p> <p>03-04. 感染防止の技術（2）滅菌物の取り扱いの基本</p> <p>05-06. 排泄援助技術（1）一時的導尿</p> <p>07-08. 排泄援助技術（2）持続的導尿、24h 蓄尿</p> <p>09-10. 排泄援助技術（3）導尿（事例検討）</p> <p>11-12. 症状・生体機能管理技術 血液検査（1）基礎編</p> <p>13-14. 症状・生体機能管理技術 血液検査（2）実践編</p> <p>15-16. 与薬の技術（1）基礎知識、静脈注射</p> <p>17-18. 与薬の技術（2）点滴、輸液ポンプ</p> <p>19-20. 与薬の技術（3）皮下注射、筋肉内注射</p> <p>21-22. 呼吸・循環を整える技術（1）吸入療法：酸素</p> <p>23-24. 呼吸・循環を整える技術（2）吸入療法：薬液</p> <p>25-26. 呼吸・循環を整える技術（3）上気道吸引、喀痰検査</p> <p>27-28. 排泄援助技術（4）浣腸、便検査</p> <p>29-30. まとめ（事例検討）</p> <p>* 詳細は別途資料配布</p>	
その他の授業の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生一人一人が効率よく学習できるように2クラスに分けて授業を行う。</li> <li>・ 「事前課題」「小テスト」「グループ演習」「発表」で授業を構成する。</li> <li>・ E-learning (Nursing-Skills) による自己学習環境を整備している。</li> <li>・ 自己学習力の育成、限られた時間を効率よく活用するために「事前課題」を課している。</li> <li>・ ポイントの認識と確認、自分の理解度の確認のため毎授業内で「小テスト」を実施する。</li> <li>・ 思考力を養う目的で課題事例に対する「グループ演習」を行う。</li> <li>・ 「発表」により、他者に伝える力を養い、気づきを共有する機会とする。</li> <li>・ 主体性や積極性を養う目的で「発表」の運営を学生が行う。</li> <li>・ 身体に与える影響を理解できるように、シミュレータなどを活用する。</li> </ul> <p>* 詳細は別途資料配布</p>	
時間外学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前課題：該当授業に関するNursing-Skillsの小テストを授業前日までに個人学習する。</li> <li>・ 事後学習：授業時間内のみの学習では技術修得は困難であり時間外に反復学習が必要である。</li> </ul> <p>方法としてNursing-Skillsを用いて自己学習する他、事前のアポイントメントにより教員による技術指導も可能である。</p>	
評価方法と評価割合	<p>(1) 事前課題 (2) 小テスト (3) 演習態度 (4) 技術試験を総合して判定する。</p> <p>配分：事前課題・小テスト・演習態度60%、技術試験40%。</p> <p>技術試験60%未満、あるいは(1)～(4)の総合点が60%未満である場合、単位認定不可。</p> <p>演習態度は、出席（原則100%）と服装、授業参加度で判断する。</p> <p>20分以内の遅れは遅刻とし、それを超えると欠席として取り扱う。また、遅刻3回で欠席1回とみなす。</p> <p>* 詳細は別途資料配布</p>	
テキスト	<p>系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2,3]（医学書院）</p> <p>看護技術プラクティス 第4版（Gakken）</p>	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の實務経験	有・無	有

	内容	秦さと子：病院の看護師 田中佳子：病院の看護師 廣田真里：病院の看護師 水迫祐人：病院の看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	熟練した看護実践力を活かして、看護技術の原理や科学性の理解を促進する。 対象に対して安全で安楽な技術の適応や応用を考える示唆を与えながら支援を行う。	